



デジタル空間における
情報流通の健全性確保の在り方に関する検討会

学校現場での
メディア情報リテラシー教育の実践

株式会社インフォハント
2024年5月9日

INDEX

01. 自己紹介
02. インフォハントについて
03. 取り組み
04. 教育現場で取り組みをする上での課題
05. 教育現場で取り組むべき理由
06. 教育現場での変化と希望
07. 学校の授業以外での啓発の可能性

01. 自己紹介

安藤 未希



株式会社インフォハント 代表取締役

メディア情報リテラシー教育



一般社団法人リトマス 理事

ファクトチェック専門メディア「リトマス」運営



総務省地域情報化アドバイザー

分野：教育情報化／情報教育



司書資格

インフォハントについて



Vision_インフォハントが実現したい社会

すべての人が自分らしい毎日を送る、多様な価値観を認め合う社会

Mission_インフォハントの使命

情報を取捨選択し、情報を読み解くことができる人を増やす

Core Competence_インフォハントの強み

クイズや演習を通じて楽しく学び、身に付くコンテンツ

ファクトチェック実務経験者による、リアルを伝えるコンテンツ

03. 取り組み

メディア情報リテラシーの普及

主に教育機関や企業に向けて、課題を解決するためのオーダーメイドコンテンツの提供を行っています。

●児童・生徒・学生向け（小学1年生～大学生）

- ・教育機関（小・中・高・大）での授業や講演の実施
- ・授業資料提供、授業アドバイス、コンテンツ共同開発

（実績一例）

- ・ 埼玉県戸田市立美女木小学校 授業
- ・ 静岡県静岡市立南藁科小学校 授業
- ・ 東京都足立区立入谷南中学校 講演
- ・ 北海道木古内町立木古内中学校 講演
- ・ 高知県立窪川高等学校 講演
- ・ 群馬県立二葉高等特別支援学校 授業

●大人向け（～70代）

- ・教育機関（小・中・高）での教職員研修、PTA勉強会
- ・企業研修、市民講座

（実績一例）

- ・ 埼玉県戸田市立美女木小学校 教員研修
- ・ 福井県教育委員会 主催「情報I」教員研修
- ・ 岐阜県白川町立黒川小学校 PTA主催勉強会
- ・ 高知県日高村 村民向け講演
- ・ ネットトヨタ南国株式会社 社員研修
- ・ 株式会社マルゴ 社員向け情報配信

自己流の情報との向き合い方のクセがつく前に、「適切な情報との向き合い方のクセ」を身につける双方向性授業。恐怖訴求や知識の詰め込みではない「自分でやってみて、自分で考え、自分で気が付く」ことを大切にしています。

| タイトル | 内容 |
|------------------------------|---|
| 1 みんなで検索してみよう | <ul style="list-style-type: none"> ・ネット上の情報には、間違えている情報が混ざっていることを知る ・ネット上から自分が欲しい正確な情報を探すのは難しいことを理解する 参考) プレジデントオンライン・読売新聞 |
| 2 「ちゃんと検索」して「ちゃんと選ぶ」ってどうやるの？ | <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムを理解し適切に検索できるようになる ・発信者の意図を想像し適切な情報を選択できるようになる |
| 3 ウソってなんだろう？ | <ul style="list-style-type: none"> ・情報を事実を意見に分類し、事実にはウソのない情報発信を行うことの大切さを学ぶ ・意見には間違いがないことを学び、他者の意見へのリスペクトの気持ちを醸成する |
| 4 ウソを信じるとどうなるの？ | <ul style="list-style-type: none"> ・ウソの情報を発信するのも拡散するのもいけない理由を理解する ・画像に関する著作権を理解する ・出典を書くことの大切さと書き方を知る |
| 5 情報が発信される理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・発信者には発信する理由があることを知る ・同じ事実について書かれていても、切り取る箇所によって違う印象を与えることを理解する |
| 6 災害時の情報収集 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に拡散する偽誤情報や真偽不明な情報について知る ・意識的な情報接触、意思を持った情報収集の大切さを理解する 参考) 教育新聞・国連広報センターブログ |
| 7 ウソを作ってみよう | (これまでのまとめ) <ul style="list-style-type: none"> ・情報を事実と意見に分けて考えることができ、適切なウソを作成することができる ・情報から発信者の意図を想像することができる |
| 8 自分と相手と向き合うコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインとオフラインのコミュニケーションの違いを知り、使い分けができる ・自分の感情と向き合い、表現の仕方を身につける |

振り返りシート

今までネットやGoogleは正しいと思っていたけど、間違った情報も中にはあることを学びました。これから調べ学習の時は説明の文もちゃんと見て焦らず慎重にしていきたいです。 (第1回「検索してみよう」授業後)

今日の授業を聞いて、自分の感想、人の感想を大切にしながら、事実をしっかりと伝えることが大事だと思いました。 (第3回「ウソってなんだろう？」授業後)

すぐに「これは事実だ」と信じ込まないで、よく確認しなきゃいけないと思いました。簡単に言うと「結論を急がない」ということになると思います。パニックになっているときこそ人は騙されやすいから、そういうときこそ冷静に情報を確認しないとないと思いました。 (第6回「災害時の情報収集」授業後)

誰がホントの情報を送っているかはぱっと見でわからないものなので、情報を見たら、まずはほんとに事実なのか、考えてみたり調べたりしたり、自分で確認することが大事だと思いました。本当のことなのか嘘のことなのか確認するのに想像力を使うことも大事だと思いました。 (第6回「災害時の情報収集」授業後)

偽情報を作ったことで、画像加工のやりやすさや騙されやすさに気づきました。偽情報を作る立場で想像してSNSの投稿を見る時は気を付けたいと思いました。 (第7回「ウソを作ってみよう」授業後)

小学生向け授業例 <<情報の発信者として>>

【実施の経緯】

- ・8回の授業を終えた児童は、発信することに少なからず恐怖心を抱いていた

【目的】

- ・不特定多数に発信することの楽しさを知る
- ・発信者としての適切なふるまいを学び身につけることで、発信することへの自信を身につける

【内容のポイント】

- ・1・2回目の授業では、発信意欲を盛り上げると共に、情報を客観的に捉える必要性を理解する
- ・3回目の授業で表現力について学び、4回目以降の授業で実際に記事を執筆する
- ・最後の授業では発信する際に気を付ける点を確認し、中学進学後も適切に発信を続けることを後押しする

| | タイトル | 目的 |
|---|----------------|---|
| 1 | 何が見えますか？ | 同じ情報を目にしても取得する情報は人それぞれ違うことを理解し、自分にしか発信できないことがあることを知る |
| 2 | なぜ見てるんですか？ | 何を目的に情報を見るかで情報を見るポイントが変わることを体験し、自分の発信する情報を客観的に考える必要性を知る |
| 3 | 伝わる表現ってなに？ | 文字での表現方法を知る ※外部のサービスを利用予定 |
| 4 | 文章を書いてみよう！ | 試行錯誤しながら文章を作成し発信することの楽しさを知る。（実施方法と回数は検討中） |
| 5 | これからも発信を楽しむために | 迷惑動画のアップや炎上をしないために、発信する時に確認するポイントを知る |

04.

教育現場で取り組みをする上での課題

●予算の確保

- ・学校内予算、各種助成金、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

●対応教科が曖昧

想定される対応教科が複数あるため、教員が意識しにくい

| | |
|-----|------------------------------------|
| 小学校 | 総合的な学習の時間、道徳、国語、社会 |
| 中学校 | 総合的な学習の時間、道徳、国語、社会、技術 |
| 高校 | 総合的な探究の時間、国語、公共、情報I、情報II、情報処理（商業科） |
| その他 | 特別活動、PTA勉強会、保護者会など |

●教員が必要なことに気が付いていない

- ・教員自身に知識がない
- ・児童生徒の情報との向き合い方や置かれている環境についての理解が乏しい

※教員が必要なことに気が付いていない場合でも、説明すれば必要だと認識していただけることが多い

●成果が目に見えにくく学校への評価に影響しない

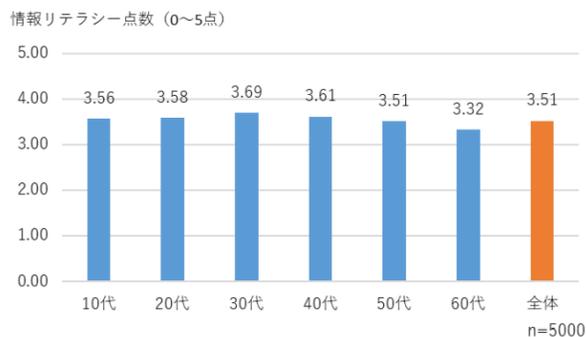
- ・社会生活には影響するが、成績には直接影響しないと思われる（学校で取り組む直接的なメリットがない）

大人の情報リテラシーレベル

現在、年代別の情報リテラシーの点数はどの年代にも差がなく（図1）、かつ情報検証を行う頻度に関しては10代を含む若年層の方が頻度が高いという結果（図2）になっている。

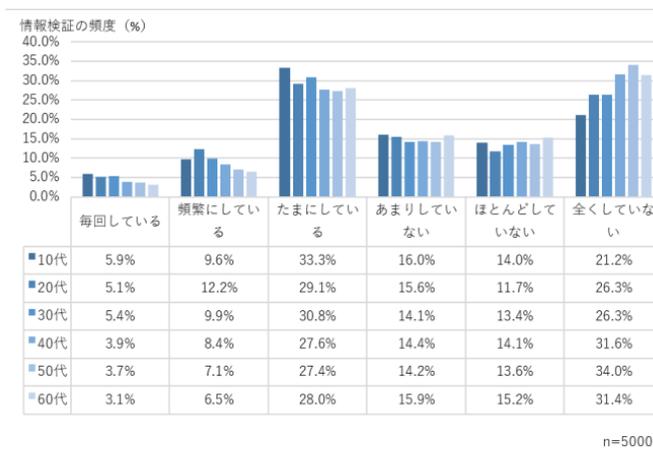
一方、小中学生が情報源として信頼しているのは「おうちの人」「先生」という結果もある（図3）。このことから、身近である大人や教員がメディア情報リテラシーを高め、子どもたちに広げていくことも必要であると言える。

図1



図表 7.2 情報リテラシー (年代別)

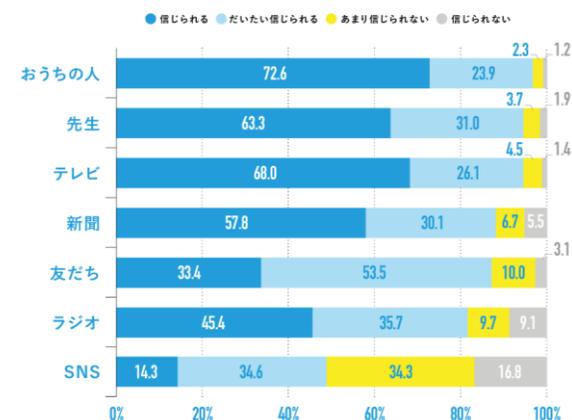
図2



図表 6.7 関心のある情報・ニュースに対して情報検証を行う頻度 (年代別)

図3

次にあげた人やものから見たり聞いたりしたニュースは、信じられますか。(小4~中3平均)



出典：

・国際大学グローバル・コミュニケーション・センター. 「Innovation Nippon 2024 偽・誤情報、ファクトチェック、教育啓発に関する調査研究」. 2024, P61・75

<https://www.factcheckcenter.jp/content/files/2024/04/IN2024.pdf>

・電通総研・読売新聞. 「子ども「ニュースの読み方」調査」. <https://qos.dentsusoken.com/articles/2439/>, (2022/03/07)

05. 教育現場で取り組むべき理由

- 社会生活を送る上で必要不可欠な知識である
 - 身近な大人が子どもへ指導できない（知らない、知っていてもどう説明したら良いかわからない）
 - 親のリテラシーが子どもに引き継がれる可能性が高い
 - 現段階で学校以外で学ぶ機会がない（学校卒業までに身に付いていないと学ぶ機会がない）
- ※不適切な情報取得のクセが付く前、情報に触れ影響を受け始める小学生から取り組むのが好ましい

06. 教育現場での変化と希望

- 2019年にGIGAスクールが開始され5年、一部の学校（教員）の意識はモラルからリテラシーへ移りつつある
- 教えればできるようになる

07. 学校の授業以外での啓発の可能性

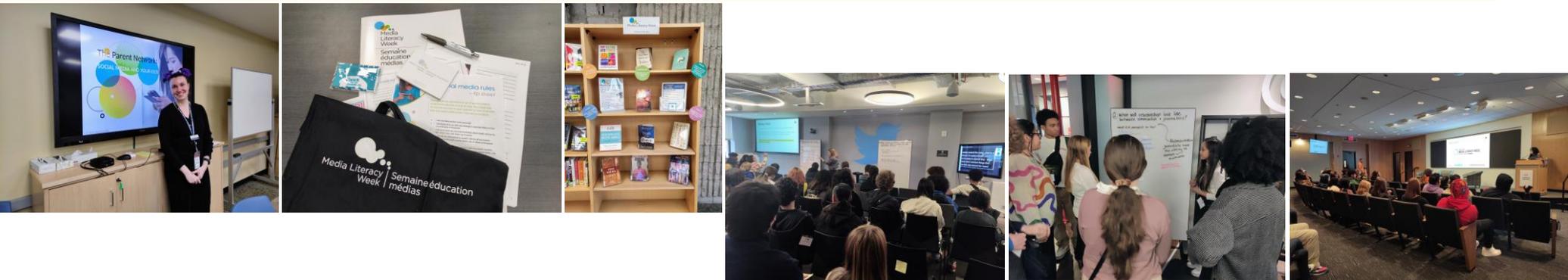
●啓発イベントの開催

Global Media and Information Literacy Week

- ・ユネスコが主催し、2012年から毎年開催（10月24-31日）
- ・ユネスコが主催するカンファレンスの他、同時期に世界各国で行われるイベントの一覧をユネスコのサイト内で紹介（2023年、日本でのイベントはリストにはなし）
- ・各国イベントの主催は、政府、メディア、NGO、NPO、大学、公共図書館、教育関連会社、など

2022年MIL week期間中に、カナダ オンタリオ州オタワの公共図書館で図書館主催のワークショップが行われた

（写真 左：司書が講師を務める 中：参加者に配られたノベルティ 右：図書館内に設けられた関連図書コーナー）



2022年MIL week期間中に、アメリカ ニューヨーク州のTwitter社（当時）とミネソタ州のトムソン・ロイター社でメディア情報リテラシー教育を行う団体NAMLE主催のイベントが行われた（写真 左：NYでの講義 中：NYでの講義後に行われたワークショップ 右：MNでの講義）



ありがとうございました